

# 長野県埋蔵文化財ニュース

NO. 1

1982. 9. 20

(財)長野県埋蔵文化財センター

〒380 長野市長門町1097

☎0262-34-2848

## (財)長野県埋蔵文化財センターの発足にあたって

理事長 市 村 勲

本県では、中央自動車道西宮線の長野県内通過にともない、昭和45年に長野県中央道遺跡調査会を設け、12年間にわたり建設用地内の埋蔵文化財包蔵地の発掘調査事業を実施してまいりましたが、本年3月31日をもって、すべての事業を完了いたしました。この間、国の史跡に指定されました阿久遺跡をはじめとして、学術的に価値の高い遺跡も数多く発掘調査され、多大な成果をあげることができました。御協力をいただきました関係各位に対し深く感謝申し上げます。

引き続いて、中央自動車道長野線、関越自動車道上越線、北陸新幹線等の大規模開発プロジェクトが実施及び計画の段階にきております。

これ等の事業に対処するため、更に埋蔵文化財の保護体制の整備・充実を図ることが急務とされ、県考古学会や県下市町村の長年にわたる要望もあり、このたび財団法人長野県埋蔵文化財センター設立に至った次第であります。

最近、特に県民の間に文化に対する関心が高まり、地域や庶民の文化を見直す動きが活発ですが、埋蔵文化財の発掘は、われわれの祖先が作りあげた、いにしへの文化を解明するものであります。その意味で埋蔵文化財センター設立は大規模開発プロジェクトへの迅速な対応はもとより、祖先の残した文化遺産を後世に伝えとともに、保護思想の普及、及び発掘成果の公開・活用を図るうえで重要なことと考えております。

ここに関係者一同、各界からの強い御要望に答えるべく、県下の埋蔵文化財保護のため、可能なかぎりの努力をいたす所存でございます。広く各位におかれましても、当センター発足の目的がより遂行されますよう今後とも倍旧の御支援と御協力を賜りたくお願い申し上げます。



長野本部玄関 (旧県立図書館)



岡谷調査事務所開所式のテープカット

## (財)長野県埋蔵文化財センター設立経過

常務理事 三 村 忠 幸

中央自動車道西宮線建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査開始の昭和45年ころから、発掘調査関係者、県考古学会等から埋蔵文化財センター設立の要望が始め、更に、昭和54年に至り、長野県市町村教育長協議会においても県で埋蔵文化財センターを設立するよう議題として取りあげられてきた。

昭和55年10月、県教育委員会では、昭和56年度において、埋蔵文化財センターを設立することとして、予算要求等の準備を始めたのであるが、中央自動車道西宮線の調査が最終年度にあたること、更には中央自動車道長野線の調査が昭和57年度以降であること等の事由からこれが見送りとなった。

昭和56年11月、昭和57年度からの中央自動車道長野線の建設計画に伴う遺跡調査を踏まえ、県教育委員会では、昭和57年度に埋蔵文化財センターを設置することにして、予算、組織について具体的検討に入った。

昭和57年2月、昭和57年度当初予算の知事査定において、財団法人による埋蔵文化財センターの設置が決まり、直ちに、昭和57年度の中央自動車道長野線建設に伴う遺跡調査計画について関係機関との調整を開始

した。

なお、この間に、県考古学会長から県立の埋蔵文化財センター設置の請願書が県議会に提出された。

3月上旬には、遺跡調査面積がほぼ固り、これに伴い埋蔵文化財センターの人員配置計画も決定をみ、財団法人の設立の準備に入ることになった。

そして、3月下旬、大規模開発事業に対処する埋蔵文化財の保護体制の整備、調査及び研究、保護思想の普及等々の適切な実施をねらいとして、財団法人長野県埋蔵文化財センターの設立が認可（主たる事務所、長野市長門町1097旧県立図書館跡）となり、第1回理事会の開催により、昭和57年度事業計画、収支予算、従たる事務所として岡谷調査事務所（岡谷市郷田2-7260-1）の設置が決った。

4月1日に職員の発令がされ（県出向職員一行政職2名、教職員10名）、4月8日には旧岡谷市労働会館を借用し、岡谷調査事務所の開所式を行い、事業開始の運びとなった。また、土地買収等で遅れていた発掘調査も、5月14日（金）風雨はげしい中、中島遺跡で鉄入式を挙行しスタートした。

### 昭和57年度(財)長野県埋蔵文化財センターの組織と構成

#### ○理 事 会

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 理 事 長 | 市村 勲（県教育長）            |
| 副理事長  | 大友博幸（県教育次長）           |
| 常務理事  | 三村忠幸（埋文センター事務局長）      |
| 理 事   | 塩谷博夫（県企画局長）           |
| 〃     | 山口 勉（県高速道局長）          |
| 〃     | 樋口太郎（県文化課長）           |
| 〃     | 大澤和夫（県考古学会長）          |
| 〃     | 林 泰章（岡谷市長・市町村代表）      |
| 〃     | 中村博二（長野市教育長・市町村教育長代表） |
| 〃     | 林 茂樹（日本考古学協会員）        |

10名

監 事 三井 潔（県会計局会計課長）

〃 西川哲雄（県教委総務課長）

2名

#### ○(財)長野県埋蔵文化財センター

事務局長 三村忠幸（常務理事兼任）

庶務部長 丹羽長雄

調査第1部長 神村 透

調 査 研 究 員 小林 至

〃 小柳義男

〃 土屋 積

〃 百瀬長秀

〃 和田博秋

〃 井口義久

〃 百瀬久雄

〃 関 賢司

調査第2部長 樋口昇一

（臨時職員 花岡とよ子・小田切礼子  
中山志真子・岩方玲子）

## (財)長野県埋蔵文化財センターの 寄附行為並びに諸規程について

庶務部長 丹羽 長雄

当財団法人の発足にあたり制定されました寄附行為並びに諸規程の概要について御紹介いたします。

◇ ◇ ◇ ◇

まず寄附行為においては、長野県内における埋蔵文化財保護に必要な事業を行うことにより、本県の文化向上に寄与することを目的とし、その事業の持つ意義と財団法人の進むべき方向をしっかりと定めております。

このため、事業は埋蔵文化財に関する国及び長野県教育委員会の施策に沿うよう運営することを基本原則として次の事業を行うこととしております。

- (1) 埋蔵文化財の調査及び研究
- (2) 埋蔵文化財調査技術の指導及び研修
- (3) 出土遺物の保存処理
- (4) 埋蔵文化財の公開・活用及び保護思想の普及
- (5) 埋蔵文化財関係の資料の収集・保存及び刊行
- (6) その他目的を達成するために必要な事業

また、財団法人の役員は、理事長に長野県教育委員会教育長の職にある者を充て、理事は学識経験者及び県職員の中から理事長が委嘱することと定めており、現在は理事長以下10名により理事会を構成し、他に監事が2名選出されております。

以上、財団法人の憲法ともいえるべき寄附行為のうち主な事項について述べましたが、これにより発足した財団法人の運営のための諸規程は「業務運営規程」の他12の規程を次のように制定しました。

(1)業務運営規程(昭和57年4月1日施行) (2)組織規程(同上) (3)事務処理規程(同上) (4)文書取扱規程(同上) (5)公印規程(同上) (6)給与規程(同上) (7)旅費規程(同上) (8)日額旅費規程(同上) (9)就業規程(同上) (10)財務規程(同上) (11)被服貸与規程(同上) (12)長野県埋蔵文化財発掘調査に関する安全規準(昭和57年5月15日施行) (13)発掘作業員就業規程(同上)

このうち職員や、財務に関する規程等は総べて長野県が定めた関係諸規則を受けているので省略をし、財団法人として特に御理解を頂きたい規程についてののみ簡単に紹介します。

まず、「業務運営規程」は、第3条において「長野県



中島遺跡での鍬入式風景

及び国又は国の機関が実施する公共開発事業について、事業のため調査を行う必要がある者の委託を受けて、埋蔵文化財の調査を行うほか、埋蔵文化財の保護のための必要な調査及び研究を行う」と定めており、また、受託調査の範囲は、第5条において次のように規程しています。

1. 埋蔵文化財の分布状況調査
2. 遺跡の範囲確認のための調査
3. 遺跡の発掘調査
4. 出土品の整理及び保存処理
5. 調査記録資料の整理及び調査報告書の印刷刊行

これらの事業はいずれも県教委と協議のうえ委託契約を締結して実施するものであります。

この他に、第13条で、埋蔵文化財調査技術の指導に関する事業として、市町村教育委員会において実施する調査に関し技術指導等を行うこと、第14条では埋蔵文化財保護思想の普及に関する事業として、現地説明会の開催・成果の発表、公開、展示及び貸与並びに講師派遣等を実施、更に第15条において資料の収集、保存及び刊行に関する事業を実施することとしており、以上述べた事業はいずれも寄附行為に定められた目的達成のための事業であります。

次に、「組織規程」により当財団法人の事務局は(1)庶務部、(2)調査第1部、(3)調査第2部、と3部で編成されており、庶務部と調査第1部は当面、中央自動車道長野線発掘現場のある岡谷市に、調査第2部は長野市に所在し、事務の分担は、庶務部を除いて次のように定められております。

- (1)調査第1部 埋蔵文化財の調査並びに技術の指導に関すること。
- (2)調査第2部 埋蔵文化財の研究。保護思想の普及並びに資料の収集、保存及び刊行に関すること。

以上、紙面の都合があり、特に御理解を頂きたい項目のみを略記しました点御了解下さい。

## 昭和57年度中央道長野線岡谷地区の発掘調査計画と現状

調査第1部長 神村 透

中央自動車道長野線埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を目的とし、岡谷調査事務所が昭和57年4月8日に開所された。こうして始まった今年度の調査は、岡谷市内の用地買収がほとんど済んでいない中でのため、予定地内の市有地を調査の主体にし、用地買収ができて調査にかかれるだろう遺跡、工事用道路がかかる遺跡の5遺跡、計9,850㎡を調査対象にした。

**西林A遺跡** (4,000㎡) 市営球場上の尾根部山林が遺跡で、全面が松林となっているため、遺物採集は困難である。以前、球場前の道路から黒曜石剥片を採集している。用地買収がすみ、立木が伐採された後発掘調査することになっている。

**柳海渡遺跡** (500㎡) 塚間川西岸の山麓のゆるい傾斜地で、水田と宅地となっている。縄文時代中期末の曾利式土器と打製石斧が採集されている。調査予定地の大半が未買収地のため、市有地である水田一枚を調査する予定である。

**中島A遺跡** (2,900㎡) 山麓から低地にうつった水田地帯の中に、塚間川をはさんでわずかに高い台地が遺跡である。縄文時代中期と弥生式土器が採集されて

いる。用地内は未買収なので、そのうちの市有地の水田と畑地を5・6月と発掘調査し多少の遺構・遺物を得て完了した。(速報参照)

**中島B遺跡** (2,100㎡) A遺跡より少し山よりになって、塚間川北側の小台地である。市有地2枚の水田を発掘する。6月から調査を初め、現在調査中である。(次項参照)

**下り林遺跡** (350㎡) トンネル用工事の排土を今井インター予定地に運搬するための工事用道路を、現市道を拡幅してつくることになり、下り林遺跡ではわずかに遺跡北端の一面をけずり落とすことになっており、その部分を調査する予定である。縄文早期から中期にかけての資料が松林内調査のおりに出土している。その中心部は道より山に入った所にあつて、調査予定地ははずれである。

**大久保B遺跡** 成田公園西側のながのくぼと呼ばれる沢奥にあつて、トンネル入口部分に縄文中期の遺物が散布している。県教委の確認調査の結果、遺跡であることが判明したので、県教委と公団との協議の結果を待って調査することになっている。

## 調査速報 1

## 岡谷市中島(A・B地点)遺跡

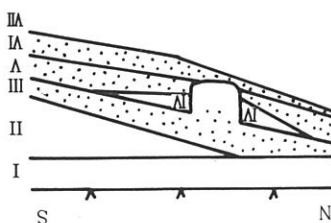
——岡谷市内初の旧石器時代遺跡の調査——

調査研究員 百瀬 長秀

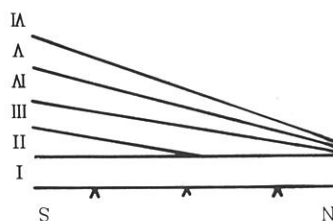
本遺跡では、まず10～15mの間隔のトレンチを設定し、包含層の広がりや堆積状況を把握し、次いで平面発掘を行うことにした。測量は、基準点(X=8934.0457, Y=-41060.9474)から真北方向及び真北に直交する方向の基準線を設定し、遺方測量に依った。A地点は5月17日からトレンチによる調査を開始し、5月27

日より平面発掘を行い、7月13日に終了した。また、B地点は5月21日からトレンチによる調査を開始、6月10日より平面発掘を行い現在調査中である。

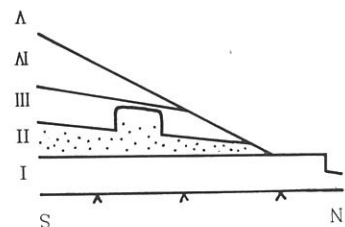
**A地点**は塚間川を挟んでおり、右岸は小丘陵状で畑地となり、左岸は微高地の緩斜面で水田となっている。右岸側は、耕土層(I層)・黒褐色土層(II層)・暗褐色



A地点 塚間川右岸側



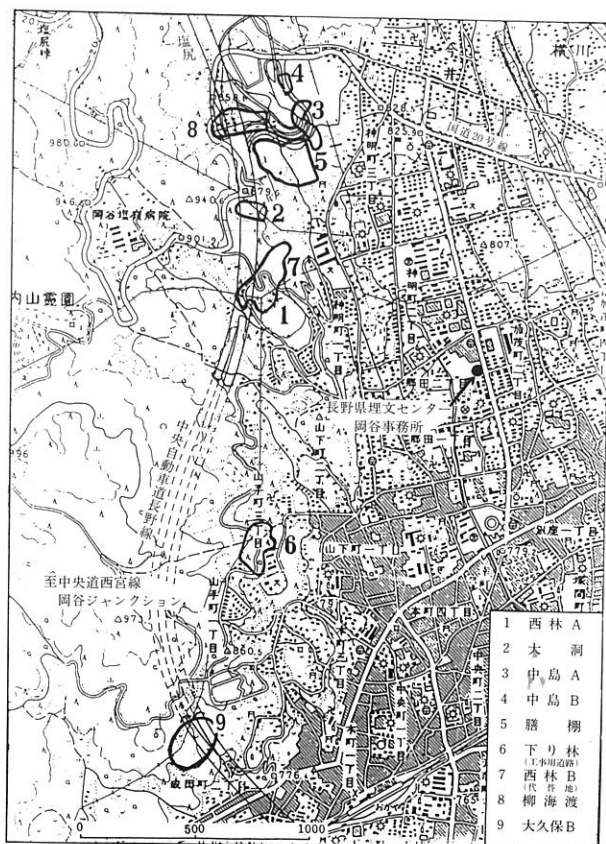
A地点 塚間川左岸側



B地点

色土層（Ⅳ層）・火山灰質の硬い河成層（Ⅴ層）の順に堆積しており、Ⅱ層とⅣ層間には漸移層（Ⅲ層）が存在する。Ⅲ層上面から土壌11基、Ⅴ層上面から耕作に関連するとみられる段状の遺構2基が検出された。遺物包含層はⅡ層で、縄文時代晩期後葉の水式土器片を主とし、黒曜石フレイク、打製石斧、有舌尖頭器、石鏃（縄文時代早期のものを含む）、平安時代後半期の土器片等がある。左岸側は、耕土層（Ⅰ層）・暗褐色土層（Ⅱ層）・黒色土層（Ⅲ層）・砂質灰褐色土層（Ⅳ層）・黒褐色砂礫層（Ⅴ層）・火山灰質の硬い河成層（Ⅵ層）の順に堆積する。遺構は存在せず、Ⅲ～Ⅴ層にかけて磨滅した遺物が散見されるが、包含層は認められない。遺物は水式土器片と黒曜石フレイクが主で、弥生時代後期土器片、平安時代の土器片等がある。

**B地点**は塚間川左岸側で河道からやや離れた狭い小丘陵上に位置する。耕土層（Ⅰ層）・水田造成時の盛土層（Ⅱ層）・黒色土層（Ⅲ層）・砂質の硬い黄褐色土層（Ⅳ層）・砂質暗褐色土層（Ⅴ層）・軟らかい火山灰質の河成層（Ⅵ層）・礫を含んだ硬い火山灰質河成層（Ⅶ層）の順に堆積し、Ⅳ層～Ⅶ層には河川流路がいく筋か残されている。遺物包含層はⅢ・Ⅴ・Ⅵ層で、Ⅳ層上面からは木の根の痕跡やロームマウンドに混じって土壌数基が検出され、Ⅴ～Ⅵ層にかけては旧石器時代の遺物集中箇所（ブロックまたはユニット）が検出されつつある。遺物は、Ⅲ層とⅤ層最上面からは水式土器を主に、縄文時代前期及び後期の土器片、石鏃、ドリル、黒曜石フレイク、古墳時代の土器、施釉陶器



昭和57年度中央道長野線関係発掘調査遺跡位置図

等が出土している。また、Ⅴ～Ⅵ層にかけては、ポイント、ポイントフレイク、チップが出土しており、旧石器遺跡の多い諏訪地方でも、岡谷市内での発掘調査ははじめてのことであり、今後の調査に期待が寄せられている。次号にその詳細を報告できよう。

#### 豊野町埋蔵文化財発掘調査技術指導略報

### 長野県上水内郡豊野町上浅野遺跡

——浅鉢を多量に伴う諸磯b式期の集石群——

調査研究員 土屋 積

6月7日から2ヶ月の予定で行われた豊野町上浅野遺跡の調査は8月11日に終了した。調査は団体営は場整備事業にともなう事前調査で遺跡推定範囲内のうち約10,000㎡以上が工事区域内に入ることが予想された。工法の変更が可能な部分は極力盛土で保存することとし、最終的に全面発掘を行ったのは約1,500㎡である。

遺跡推定範囲内およびその周辺へのトレンチは幅2m、長さ5mから20mのものを約10ヶ所設定した。その結果、南北250m、東西100mの範囲内で縄文時代前

期を中心に中期、後期、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代の遺物がそれぞれ地点をかえて濃密に分布することが確かめられ、該地域でも第一級の遺跡であることが明らかとなった。

さいわい、施工担当者との協議により、今回調査せざるを得なかった部分を除いた遺跡の大部分は盛土により保存されることになっている。ここにいたるまでの担当部署、地域受益者の努力は特筆する必要がある。

◇ ◇ ◇ ◇



発掘対象区域となった部分は鳥居川の第二段丘面縁辺にあたり、第一段丘との比高4 m前後、河床とは10 m前後の比高を持つ。河床からの距離は約200 mである。善光寺平西縁の丘陵地帯が千曲川の沖積地に面する部分であり、この段丘も鳥居川に沿って東西に伸びるとともに西から東へわずかな傾斜を示している。第一段丘面上には土師器、須恵器の散布地が至近にあるが、縄文時代の遺跡は知られておらず、弥生以前の集落の占地は第二段丘面より高い部分に求められるものと思われる。

この段丘上は現在水田となり、傾斜地に造成されたため削平が進んだ部分と保存の良好な部分とがある。遺構面までの深さは20cm程度と浅いために検出作業は困難であった。

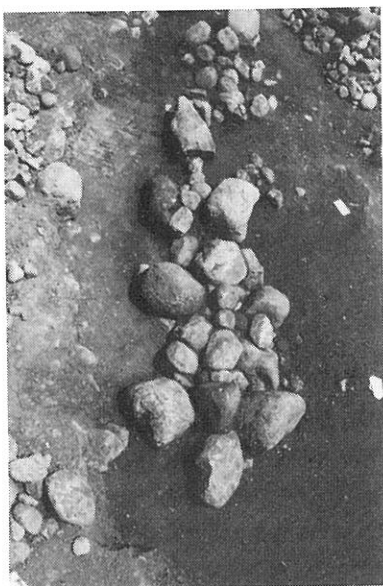
今次、検出された遺構のうち主要なものは縄文時代前期（諸磯b式期）の配石遺構である（第1図）。これ



第1図 配石西半部(北から)

は段丘縁辺に沿って東西40m、南北20mのほぼ半円形の範囲に60以上の集石とその間に散在する礫群から構成される。南半は水田造成時に削平されたと考えられ、本来は径40m程度の円形配石であったと思われる。このことは検出された集石のいくつかが半円を描いてならぶことから裏づけられよう。単位となる集石は径1 m程度の整った円形のもの、径30cm程度の小形不整形のものが、これらは人頭大の河床礫で構成される。他に50cm以上の大形礫から成る集石が、配石内の特定な場所に数ヶ所あり、中心部に検出された長さ4 m、幅50cm程度の列石状配石とそれに付属する角柱状の立石と考えられる大形礫とともに、本配石址の構造の重要部を成すものと考えられる（第2図）。

遺物はこの配石検出面において多量に出土している。土器は敷き詰めたと思えるほどの量で、2 kg袋で2,000袋以上あり、石器は、石鏃、石匙、スクレイパー、石皿、凹石、玦状耳飾、滑石製玉類など、2,000点を越



第2図 中心部列石と立石

えよう。また、この検出面では、鹿、猪など焼けた動物骨が多く出土しており、骨角器も何点か出土している。土器はその90%が諸磯b式期と考えられるものであり、他に中期初頭、後期もあり、一部に前期以外の配石が重複する可能性はあるが、ほぼ諸磯b式期の単純と考えてよい。これらのなかでも特に浅鉢形土器は数百個体に達すると思われ、器形を知り得るものだけでも百は越えるであろう。これらの浅鉢にはほとんど丹塗が施されている。集石のうち整円を成すものの周囲下層、小形集石の直下には浅鉢の完形ないし半完形土器が出土することが多く、これらの集石が墓標であることの推測材料となるかもしれない。集石下の落ち込みは入念に調査したにもかかわらず、検出面から集石下50cm程度まで黒色土という条件にも影響されて明確には検出できていない。しかし、集石が平面的なものであり礫が深くは達しないこと、その集石下の土器との間に10cm以上の間層を有することから、これらが墓墳であったとするのにさほどの無理はないと考える。

今次調査は縄文前期の配石遺構の全体像が明らかにされたものとして、上原、阿久につぐ例となる。さらに、前期配石のみにとどまらず、型式学的意味においても配石下の浅鉢、深鉢の共伴関係により、今日知られている以上の知見を得ており、中部高地における諸磯b式の組成の確定、細分に重要な資料を提供するものとなろう。

◇ ◇ ◇ ◇

なお、配石より10m東方で終末期と考えられる径8 mの円墳が一基、きわめて良く保存された状態で検出されており、これも該地域の標式的遺構となろう。

困難な条件の中で本調査に参加された島田哲男、横山かよ子、市村勝己の三氏に感謝したい。

## 昭和57年度

### 県内埋文関係機関・構成等一覧

#### ○長野県教委文化課

380 長野市大字南長野字幅下692-2  
TEL 0262-32-0111 (内線786・857)

課長 樋口太郎  
課長補佐 藤沢三吉 (8.31まで会津・衛)  
文化財係長 鈴木 昭 (8.31まで桜井清志)  
主 任 堀内規矩雄  
指導主事 小林 孚・郷道哲章・白田武正

#### ○長野県文化財保護審議会 (\*印歴史関係)

委員長 \*米山一政  
委員 \*赤羽 篤・市川健夫・大河直躬・\*黒坂周平・斎藤 史・菅原 聡・田中邦雄・田原 久・長岡克衛・\*永峰光一・羽田健三・原田文也・平林国男・湯本安正

#### ○長野県文化財保護指導委員 ( )内はパトロール担当の埋文関係文化財名

東 信 出浦晃彦 (龍岡城跡・大深山遺跡・岩屋城跡)、久保浩美 (戌立石器時代住居址・中曽根親王塚古墳・唐沢遺跡)、小淵武一 (寺の浦石器時代住居址・伴野城跡・根井氏館跡)、滝沢主税 (信濃国分寺跡・上田城跡・石造竈)、柳沢 哲 (鳥羽山洞穴・戸石城跡・塩田城跡)

南 信 林 茂樹 (御殿場遺跡・月見松遺跡・高見原遺跡・刈谷原遺跡)、丸山敏一郎 (高遠城跡・松島王墓古墳・上ノ平城跡・福与城跡・大原遺跡)、唐木孝雄 (尖石遺跡・上ノ段遺跡・井戸尻遺跡・阿久遺跡・御射山遺跡・池ノ平御座岩遺跡)、今村善興 (御猿堂古墳・鈴岡城跡・松尾城跡)、山内尚己 (飯沼雲彩寺古墳・馬背塚)

中 信 神村 透 (御玉森遺跡)、大久保知己 (弘法山古墳・葦原遺跡・赤木山遺跡群・中山古墳群・喜浦平窯跡群)、岩垂俊雄 (平出遺跡・埴原牧跡・中原遺跡群・熊久保遺跡)、小穴芳実 (青柳氏城館跡・麻績城跡・西穂高古墳群)、篠崎健一郎 (上原遺跡)

北 信 金井汲次 (森將軍塚古墳・土口將軍塚古墳・倉科將軍塚古墳・塩崎遺跡群・屋代微高地遺跡群)、青木広安 (八丁鎧塚・井上氏城跡・大室古墳群・川柳古墳群・旭山古墳群)、阿部敏明 (高梨氏城跡・霊仙寺跡・栗原遺跡・

草間丘陵遺跡群・吉古墳群・野尻湖遺跡群)、丸山日出男 (松代城跡・川柳將軍塚古墳・姫塚古墳・菅間王塚古墳・牧ノ島城跡・菅間竹原古墳群・桑根井空塚)、高橋 桂 (佐野遺跡・田草川尻遺跡・深沢遺跡)

#### ○(社)長野県史刊行会

県庁東庁舎内  
TEL 0262-32-0111 (内線577)

理事長 吉村午良 (知事)  
編纂委員長 一志茂樹  
事務局長 塚田正明  
考古編纂委員 桐原 健・宮下健司 (以上常任)  
" 永峰光一・岩崎卓也・戸沢充則  
森島 稔・樋口昇一・神村 透

#### ○(社)長野県文化財保護協会 (事務局文化課内)

会長 遠藤憲三  
常務理事 小穴芳実  
理事 金井喜久一郎・黒坂周平・坂井喜夫・塩野入忠雄・高津光一・竹内丈夫・樋口太郎・原 嘉藤・宮入芳春・矢亀勝俊・由井茂也

#### ○長野県考古学会

399-33 下伊那郡松川町元大島3051-4  
宮沢方 TEL 02653-6-3858

顧問 一志茂樹・杉原莊介・八幡一郎  
会長 大澤和夫 (飯田女子短大教授)  
事務局長 宮沢恒之  
監 事 五十嵐幹雄・大久保知己・佐藤魁信  
事務局幹事 池田啓三・市沢英利・今村善興・岡田正彦・片山 徹・木下平八郎・小平和夫・小林正春・桜井弘人・遮那藤麻呂  
幹 事 金井正三 (高水)・山口 明 (長水)・児玉卓文 (上小)・三村 肇 (松本)・山下泰男 (木曾)・長崎元広 (諏訪)・渡辺重義 (佐久)・小原晃一 (上伊)・遮那藤麻呂 (下伊)

埋文保護委員会 委員長 林 茂樹  
同 委員 壇原長則 (高水)・宮下健司 (長水)・西沢 浩 (上小)・福島邦男 (佐久)・山越正義 (松本)・山下生六 (木曾)・細川光貞 (諏訪)・三村兼清 (上伊)・木下平八郎 (下伊)

藤森栄一賞選考委員会 委員長 坪井清足  
恒川遺跡保存対策 " " 今村善興  
中越 " " " 根津清志  
文化財行政担当者部会 部会長 神沢昌二郎

## 文化課 だより

## 昭和57年度埋蔵文化財保護事業の概要

昭和57年度の埋蔵文化財保護事業については、別項のとおり計画され、現在実施中です。

県教育委員会が実施している事業のうち、**中世城館跡分布調査**は、破壊消滅等が懸念される中世城館跡の保護を図る資料を得るため昭和54年度から開始しました。今までに1,068個所の城館跡が確認され、今年度は、飯田・下伊那地区の調査をし、4ヶ年の成果をまとめた報告書を刊行します。

**中央道長野線の発掘調査**については、別稿で詳細が述べられておりますので省略することとします。

次に、**埋蔵文化財包蔵地パトロール**は、県考古学会へ委託し、県内に所在する約1万余個所の埋蔵文化財包蔵地のうち、とくに開発が著しい地区についてパトロールし及び現状確認を実施するものです。

**重要遺跡選定作業**は、現状保存を図り、後世に残すべき重要な遺跡で、現在史跡指定が困難なものについてリストアップしようとするもので、現在各市町村から約300件の候補物件があがっております。今後この候補物件を基礎に、学識経験者等の各界の意見を伺い、選定作業を進めてゆく計画です。

**市町村遺跡地図修正マイラーベース作成作業**は、今まで各市町村毎に縮尺が不統一であった遺跡分布図を2万5千分の1の地形図に統一し、広域的な開発事業等にも対応できるよう、今年度から開始しました。より正確な分布図ということで、修正作業も併行して実施してゆく予定です。

この他に、**市町村埋蔵文化財担当者会議**を昨年度から開催し、今年度は6月16日に実施しました。これは、市町村の担当職員の共通理解を深めることにより、埋蔵文化財保護行政の充実を図ろうとするもので、事務処理面では、既に効果が現れています。

## ◆事業計画大要

## 1. 市町村実施予定の国庫補助事業

(単位: 千円)

| 補助事業者名       | 実施市町村 | 事業費総額  | 左 の 内 訳 |       |        |
|--------------|-------|--------|---------|-------|--------|
|              |       |        | 国庫補助    | 県費補助  | 市町村負担  |
| ア 発掘調査       | 17    | 35,527 | 18,255  | 5,472 | 12,790 |
| イ 重要遺跡確認緊急調査 | 3     | 9,000  | 4,500   | 1,350 | 3,150  |
| ウ 出土遺物保存処理   | 1     | 850    | 425     | 127   | 298    |
| エ 遺物詳細分布調査   | 4     | 8,200  | 4,100   | 1,230 | 2,870  |
| 計            | 24    | 53,577 | 27,280  | 8,179 | 19,108 |

## 実施予定市町村

ア 小諸市(曾根城)、佐久市(樋村ほか)、望月町(後沖ほか)、上田市(和手)、更埴市(籠田ほか)、伊那市(山の根ほか)、駒ヶ根市(栗林神

## 長野県史 だより

56年春刊行の「遺跡地名表」につづく「主要遺跡」

2冊の編集作業が急ピッチで進められています。

まず、今年12月刊行予定の「主要遺跡―北東信篇」は8月末現在ほぼ148遺跡が整稿の上印刷へまわり、うち80%以上が初校―再校と進捗し、予定通りの刊行ができそうです。しかし、次の「中南信篇」の原稿が意外と集まらず、来年3月刊行が危ぶまれる状況となっています。そこで8月上旬、最後の督促をおねがいし、場合によっては編纂委員会で原稿執筆という事態も考慮しています。9月末がぎりぎりのところですので、何卒よろしく御協力下さい。

なお、「主要遺跡篇」2冊につづき、「遺構・遺物篇」1冊は単なる珍品主義にとらわれず、生活・集落・信仰など系統的な項目別による配列で、分布図・一覧表・グラフなどを多用したユニークな構成を予定しています。58年度中に執筆を終り、59年刊行予定です。引き続き60年度から通史にかかります。

(常任編纂委員 宮下健司)

社東ほか)、中川村(上の原ほか)、岡谷市(上向)、高森町(瑠璃寺前ほか)、松本市(秋葉原ほか)、長門町(藤の木)、塩尻市(吉田向井)、山形村(北唐沢ほか)、長野市(浅川扇状地ほか)、豊野町(上浅野)、高山村(久保)

イ 上田市・松本市(信濃国府跡)、飯田市(恒川)  
ウ 飯田市(恒川)

エ 佐久市・東部町・上郷町・小川村

## 2. 県実施予定の保護事業

ア 中世城館跡分布調査(5,000千円)  
イ 中央道関係(128,358千円)(埋文センター委託)  
ウ 遺跡パトロール(280千円)(県考会へ委託)  
エ 重要遺跡選定作業  
オ 市町村遺跡地図修正マイラーベース作成

**展覧会のお知らせ**：長野市立博物館では9月23日から11月3日まで、開館一周年記念行事として全国的規模の「はにわの世界」展を開きます。

**あとがき**：センター発足以来、半年おくれの創刊号。性格上県内埋文行政中心の記事はや、硬派すぎるので、ニュース性やトピックも加え、先輩格の「信濃考古」「文化財信濃」とも一味違った方向づけをねらっています。よろしくご協力とご鞭撻を。

：ミニ阿久的な上浅野遺跡。センターが特例として技術指導名目で派遣した豊野町の遺跡。土屋調査員の孤軍奮闘の努力の甲斐あって、本隊を凌ぐ大成果となる。しかし市町村への職員派遣の在り方に一石を投じた点否めず、今後の重要課題となろう。

：夏休み中、県内各地から興味ある発掘調査のニュースが飛来。近くまとめてお届けを。(S・H)